

## 第2章 練馬区の概況

### 1 位置・地形

練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、北東から南にかけて板橋区、豊島区、中野区、杉並区に隣接し、西から南西にかけて西東京市、武蔵野市、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市と隣接している。(図2-1)

区の形は東西に約10km、南北に約4～7kmで東西に長く、その面積は48.08km<sup>2</sup>あり、東京都総面積の約2.2%、23区総面積では約7.7%にあたる。

23区のなかでは、大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで5番目の大きさである。

区内の鉄道交通には、西武池袋線、西武豊島線、西武有楽町線、西武新宿線、東武東上線、東京メトロ有楽町線、東京メトロ副都心線、都営地下鉄大江戸線がある。また、主要道路には、関越自動車道、東京外かく環状道路、川越街道、環状7号線、環状8号線、目白通り等がある。

地形的には、武蔵野台地に位置し、西側から東側に徐々に低くなっている。水準基標によると、石神井高校(関町北四丁目)で海拔54.02m、開進第四中学校(羽沢三丁目)で海拔26.01mであり、海拔30～50m程度の起伏の少ない台地状の地形となっている。

区内には、石神井川と白子川の2つの河川があり、石神井川は西南西から東北東へ台地を貫流し、白子川は区内を起点とし、北西部の台地を刻み北上している。

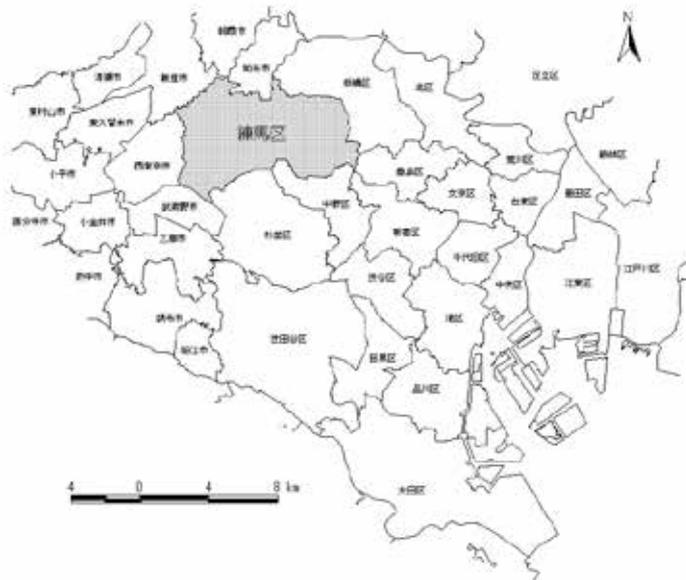


図2-1 練馬区の位置

## 2 人口

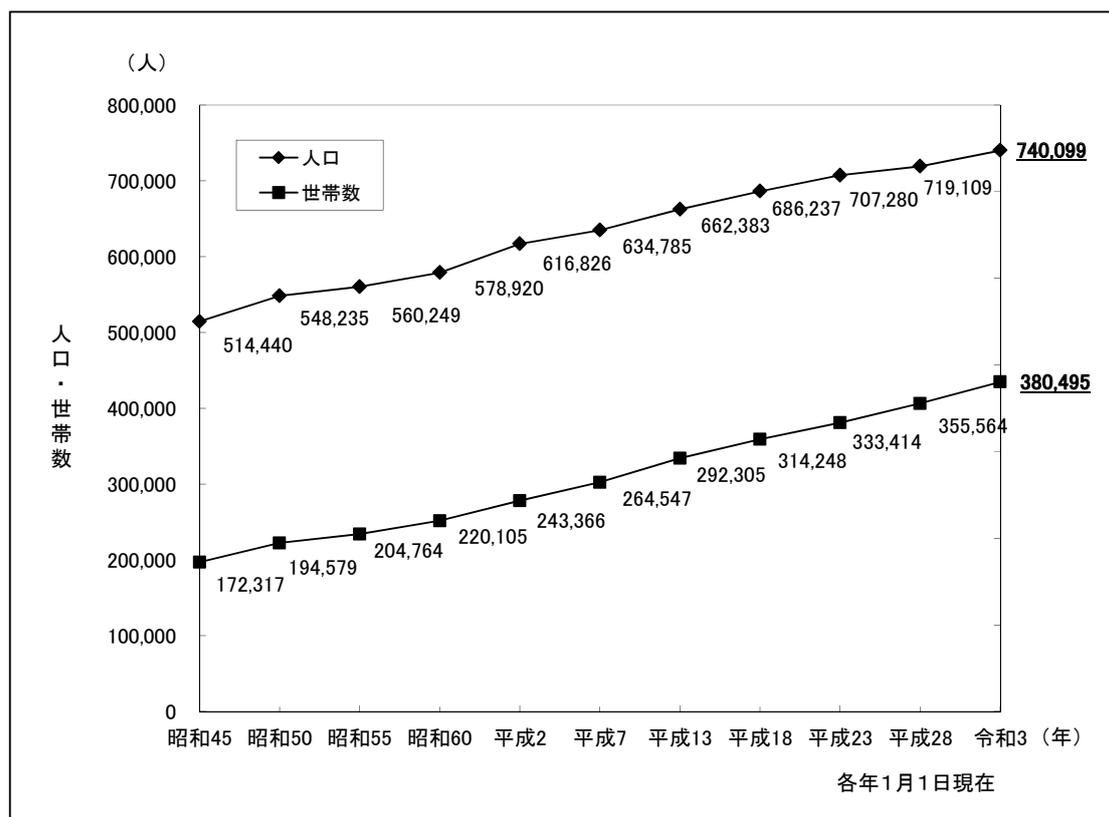
令和3年1月1日現在の区の人口および世帯を表2-1に示す。総人口は740,099人であり、区の人口密度は15,393人/km<sup>2</sup>となる。

人口と世帯数の推移を図2-2に示す。令和3年1月1日現在、練馬区の人口は世田谷区に次いで2番目、世帯数は世田谷区、大田区に次いで3番目となっている。

表2-1 人口・世帯数の現況と比較

	令和3年1月1日現在	平成28年1月1日現在	増減
人口	740,099人	719,109人	20,990人増
世帯数	380,495世帯	355,564世帯	24,931世帯増

資料:「練馬区勢概要」(令和3年版)



資料:「練馬区勢概要」(令和3年版)

図2-2 人口・世帯数の推移

### 3 公園・緑地等

区内の公園は、令和3年4月1日現在、691箇所が開設されており、これらの公園面積合計は、2,128,881.01㎡で、区面積の4.4%を占めている。

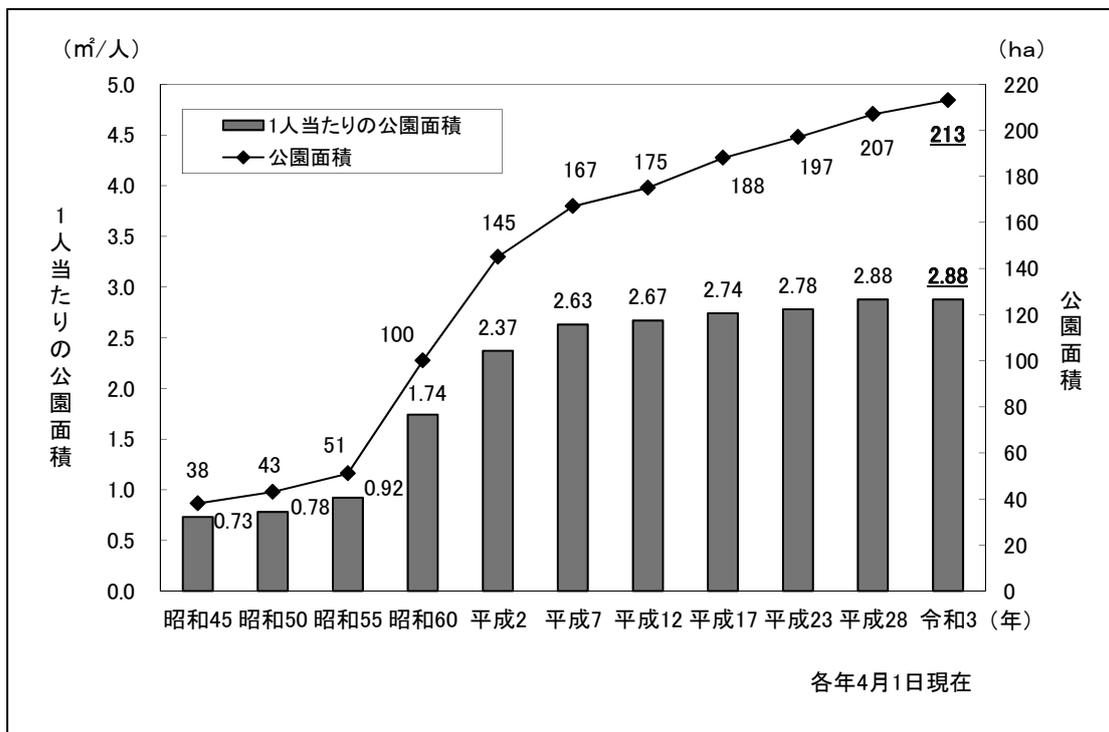
箇所数、面積について表2-2に、公園面積の推移について図2-3に示す。

表2-2 公園・緑地の現況

種別	令和3年4月1日現在	
	箇所数	面積(㎡)
都立公園	4	1,059,015.96
区立公園	209	829,571.30
区立児童遊園	219	90,861.91
区立緑地、緑道	259	149,431.84
合計	691	2,128,881.01
区民一人当たりの公園面積		2.88*

\* 令和3年4月1日現在の人口740,417人で除した値

資料:「練馬区勢概要」(令和3年版)



資料:「練馬区勢概要」(令和3年版)

図2-3 公園面積の推移

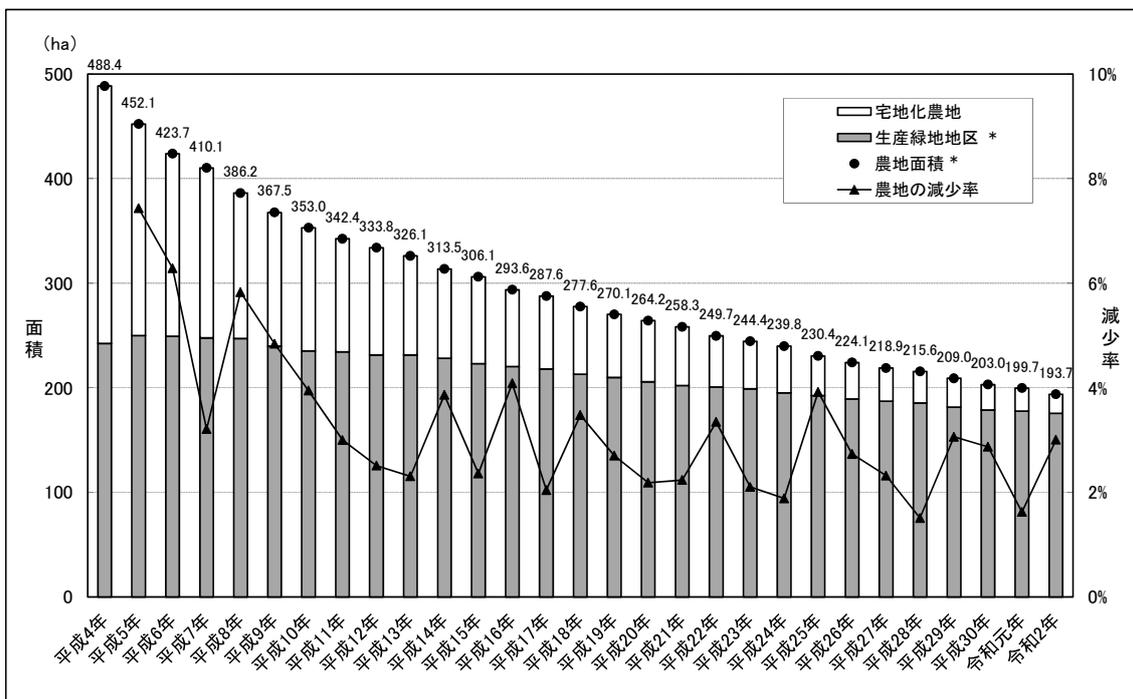
## 4 農地

かつては近郊農業地帯であったが、首都圏への流入人口の受け皿、東京のベッドタウンとして都市化が進み、農地は年々減少している。

平成4年から令和2年までの農地面積の推移について図2-4に示す。

農地は年々減少しており、ここ数年は減少率が2%台前後で推移している。令和2年の農地面積は平成4年の約40%まで減少した。

令和3年12月現在、生産緑地のうち約141ha(81.7%)が特定生産緑地の指定を受けている。



\* 生産緑地地区の面積は、各年の告示面積に基づく数値。

\* 農地面積は、各年1月1日現在の課税面積に基づく数値。

資料:「練馬区勢概要」(令和3年版)

図2-4 農地面積の推移